

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品名称	: 兼商チューンアップ顆粒水和剤
供給者の会社名称	: アグロ カネショウ株式会社
住所	: 東京都千代田区丸の内一丁目 8 番 3 号 丸の内トラストタワー本館 25 階
電話番号	: 03-5224-8000 (本社)
緊急時連絡先	: 04-2003-7010 (平日昼間) 090-1128-3295 (夜間/土/日/祝日)
電子メールアドレス	: toiwase@agrokanesho.co.jp
推奨用途及び 使用上の注意	: 農薬 (推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家の指示 を仰ぐこと)

上記以外の項目 (2. 危険有害性の要約 ~16. その他の情報) については、次ページ以降のチューンアップ顆粒水和剤安全データシート (株式会社エス・ディー・エス バイオテック、作成日: 2025 年 2 月 26 日) を参照すること。

なお、兼商チューンアップ顆粒水和剤はチューンアップ顆粒水和剤と同等の製品です。

以下、チューンアップ顆粒水和剤安全データシートに続く

安全データシート

2. 危険有害性の要約

GHS分類

(物理的及び化学的危険性)

爆発物	区分に該当しない
可燃性ガス	区分に該当しない
エアゾール	区分に該当しない
酸化性ガス	区分に該当しない
高压ガス	区分に該当しない
引火性液体	区分に該当しない
可燃性固体	分類できない
自己反応性化学品	区分に該当しない
自然発火性液体	区分に該当しない
自然発火性固体	区分に該当しない
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	区分に該当しない
酸化性液体	区分に該当しない
酸化性固体	分類できない
有機過酸化物	区分に該当しない
金属腐食性化学品	分類できない
鈍性化爆発物	区分に該当しない

(健康に対する有害性)

急性毒性：経口	分類できない
急性毒性：経皮	分類できない
急性毒性：吸入（気体）	区分に該当しない
急性毒性：吸入（蒸気）	分類できない
急性毒性：吸入（粉じん／ミスト）	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分に該当しない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分1
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類できない
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
誤えん有害性	分類できない

(環境に対する有害性)

水生環境有害性 短期（急性）	分類できない
水生環境有害性 長期（慢性）	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語	警告
危険有害性情報	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
注意書き	安全対策
	粉じん/煙/蒸気の吸入を避けること。 保護手袋を着用すること。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
	応急措置
	皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。 皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
	廃棄
	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 内容物/容器を法/条例に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	B T水和剤
成分及び濃度（含有率）	

(成分)	(化学名/化学式)	(含有率)	(CAS番号)	(官報公示整理番号)	
				(安衛法)	(化審法)
<成分①> バチルス チューリングエンシス菌の 生芽胞及び生産結晶毒素	非該当	10.0 % (力価として 1,000 B. m. t. 単位/mg)	—	—	—
<成分②> 界面活性剤等	営業秘密	90.0 %	営業秘密	営業秘密	営業秘密

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	多量の水で洗うこと。 皮膚刺激又は発疹を生じた場合、医師の診察/手当てを受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 目の刺激が続く場合は、眼科医の診察/手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぎ、無理に吐かせない。医師の診察/手当てを受けること。

5. 火災時の措置	
適切な消火剤	霧状水、二酸化炭素、粉末消火剤、泡消火剤等
使ってはならない消火剤	情報なし
火災時の特有の危険有害性	燃焼ガスには、一酸化炭素、窒素酸化物等が含まれる。
特有の消火方法	消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	適切な防護服及び保護具（手袋、眼鏡、マスク）を着用すること。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏出時の処理作業には、保護手袋、保護眼鏡、保護マスク、保護衣等を着用すること。
環境に対する注意事項	漏出した物質が河川、湖沼、海域及び養殖池、植栽地、畑作地（桑には特に注意すること）に飛散、流入しないように注意すること。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	粉末が床面等にこぼれた場合は、直ちに掃き取り、密閉できる空容器に回収すること。 飛散した場所の周辺にはロープを張る等して、人の立ち入りを禁止すること。 風上から作業すること。
二次災害の防止策	情報なし
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	設備の密閉化、局所排気装置や全体の換気設備を設けることが望ましい。
安全取扱い注意事項	容器の破損や容器からの漏洩に注意すること。 みだりに粉じんを発生させないこと。
接触回避 衛生対策	情報なし 吸い込んだり、皮膚や眼に触れないよう、長袖の作業衣、保護手袋、保護マスク、保護眼鏡を着用して、できるだけ風上から作業すること。 取扱い後は、手、顔等を良く洗い、うがいをすること。
保管	
安全な保管条件	日光から遮断し、換気のよい場所で容器を密閉し、施錠して保管すること。 飲食品や飼料と区別して保管すること。 活性が低下しないように、凍結したり、30℃以上にならないように保管すること。
安全な容器包装材料	製品容器包装材料に準ずること。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等	未設定
管理濃度	未設定
許容濃度	日本産業衛生学会で未設定
設備対策	粉じんが作業場の空気を汚染しないように、設備の密閉化、局所排気装置の設置・使用、又は全体の換気を適切に行うこと。 取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	防じんマスク
手の保護具	適切な保護手袋（不浸透性の材質のもの）
眼、顔面の保護具	側板付き普通眼鏡型又はゴーグル型保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	保護服（長袖、長ズボン）、保護長靴
特別な注意事項	情報なし

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体（水和性細粒及び微粒）
色	暗褐色
臭い	情報なし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	情報なし
可燃性	情報なし
pH	5.6（20.0 g/80 ml 水溶液）
蒸気圧	情報なし
密度及び/又は相対密度	情報なし
粒子特性	情報なし
かさ密度	0.46（見かけ比重）

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の手扱いは反応性なし。
化学的安定性	通常の手扱いは安定。
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	情報なし
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	燃焼ガスには、一酸化炭素、窒素酸化物等が含まれる。

11. 有害性情報

急性毒性 経口 LD ₅₀	>10 ⁸ CFU/動物（雌雄ラット）（GHSの分類基準に合致しないことから、分類できない）
経皮 LD ₅₀	>10 ⁸ CFU/動物（雌雄ウサギ）（GHSの分類基準に合致しないことから、分類できない）
吸入 LC ₅₀	>10 ⁸ CFU/動物（雌雄ラット、経気道投与）（GHSの分類基準に合致しないことから、分類できない）
皮膚腐食性/刺激性	刺激性なし（ウサギ）（区分に該当しない）
眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性	刺激性なし（ウサギ）（区分に該当しない）
呼吸器感受性	情報なし（分類できない）

皮膚感作性	陽性（モルモット）（区分1）
生殖細胞変異原性	情報不足（分類できない）
発がん性	情報不足（分類できない）
生殖毒性	情報不足（分類できない）
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報不足（分類できない）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報不足（分類できない）
誤えん有害性	情報なし（分類できない）

12. 環境影響情報

生態毒性

魚類：	コイ	LC ₅₀	データなし
		最大無作用濃度(30d)	>270 mg/L（成分①）
甲殻類：	オオミジンコ	EC ₅₀	データなし
		最大無作用濃度(21d)	4.63 mg/L（成分①）
藻類：	緑藻	ErC ₅₀ （72h）	3.3×10 ⁷ CFU/mL（製品）

これらの結果から、水生環境有害性 短期（急性）及び水生環境有害性 長期（慢性）を分類できないとした。

その他

蚕に対して影響を及ぼすので、養蚕主要県及びその他主要養蚕地帯や養蚕農家、共同飼育場等の周辺では使用しない。

植物体に散布されたB. t.（成分①）は日光、降雨等種々の自然要因によって消失するが、増殖することはないと考えられる。

残留性・分解性

情報なし

生体蓄積性

情報なし

土壌中の移動性

土壌中では、一般にB. t.（成分①）は漸次減少し、土壌中における拡散、蓄積はないと考えられる。

オゾン層への有害性

情報なし（分類できない）

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：

関連法規ならびに地方自治体の規則を遵守し、適切に行うこと。

空容器、空袋、汚染容器等：

内容物を完全に除去し、関連法規ならびに地方自治体の規則を遵守し、適切に行うこと。

これらの処理を委託する場合は、所轄の地方自治体の許可を得た産業廃棄物業者に委託すること。

14. 輸送上の注意

国連番号

国連の基準で評価して危険物に該当しない。

海洋汚染物質

該当しない

輸送又は輸送手段に関する

容器が破損しないように、水濡れや乱暴な取扱いを避ける。

特別の安全対策

国内規制

陸上輸送

規制されていない。

海上輸送

非危険物

航空輸送

非危険物

15. 適用法令

農薬取締法	農薬登録番号 第20479号
化学物質排出把握管理促進法	第一種・第二種指定化学物質に該当しない
労働安全衛生法	該当しない
毒物及び劇物取締法	毒物・劇物に該当しない
消防法	消防法危険物に該当しない

16. その他の情報

参考文献、資料等： —

記載内容の取扱い：

- ・ 記載内容はこの製品の一般的な取扱いに関する情報提供であって、いかなる保証をなすものではありません。
- ・ 記載内容は現時点で一般的に入手可能な情報に基づいて作成しておりますが、全ての情報が網羅されているわけではありません。
- ・ 新たな情報を入手した場合は改訂されることがあります。
- ・ 注意事項は通常取扱いを対象にしたものですので、特殊な取扱いの場合は、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。